

高齢者の中でSNSを多く利用する人の特性

- 水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
- 近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

SNSの利用が直接・間接的に影響し、社会活動への満足度を上げている

SNSの利用が対面コミュニケーションの補完的な役割を果たし、生きがいの構成要素
(橋本ら,2021)

SNSの利用が間接的に余暇活動の満足度に影響する (山下ら,2023)

SNSの利用頻度と社会的交流人数の間には有意な関連 (井本ら,2023)

シニア層がインターネットの利用頻度が高いと、社会的活動が促進される
桂瑠以(桂ら、2019)

非対面交流中心であっても、主観的健康に寄与する
福定正城・斉藤雅茂・近藤克則・斎藤民 (2022)

目的

高齢者の中でSNSを多く利用する人の特性を明らかにする

調査概要

調査時期	2025.1
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	全国, 65~84歳
割付	性別・年齢・都道府県・都市規模
回答数	1,031

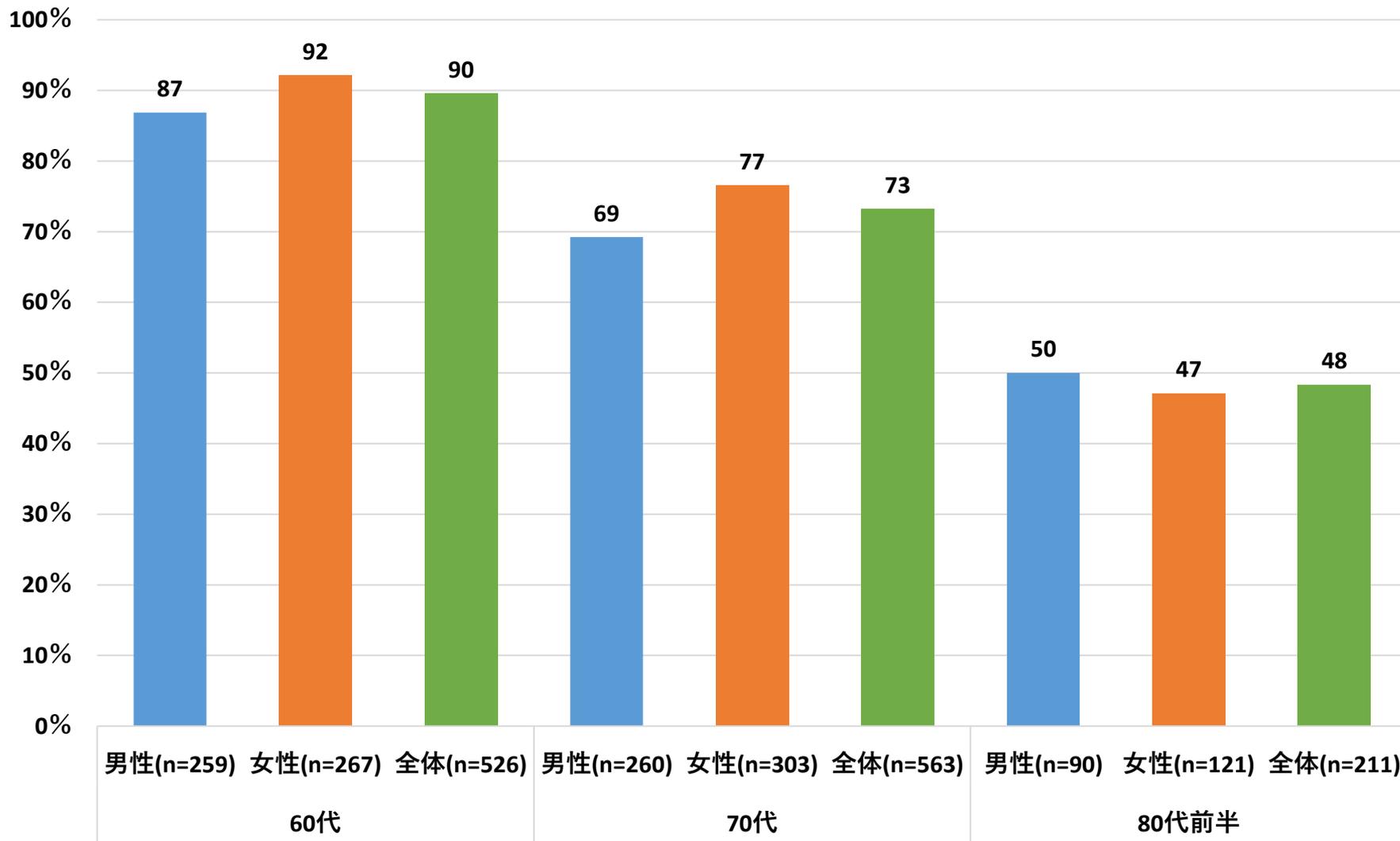
分析の流れ

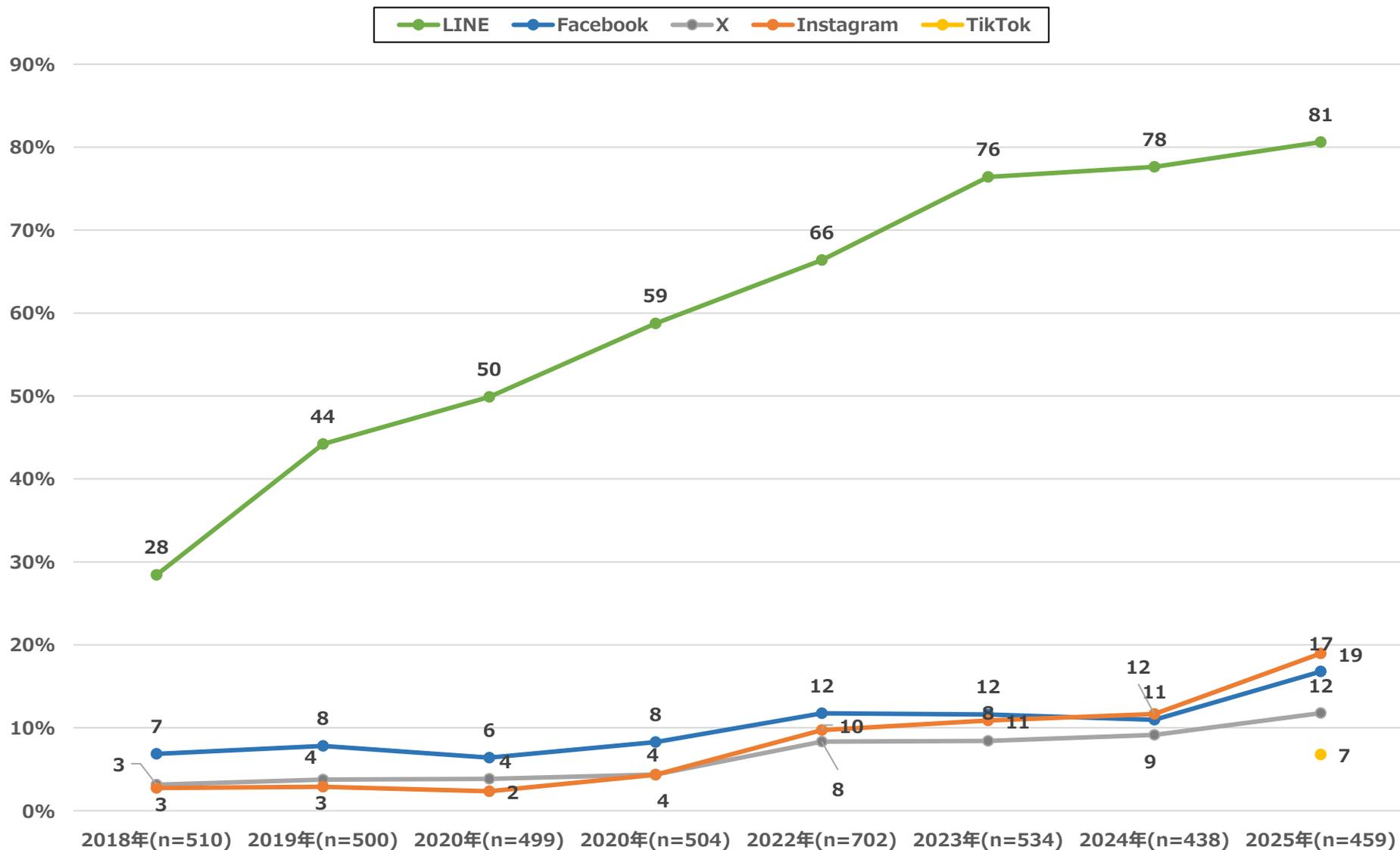
- ・SNSの利用状況により高齢者を3群に分ける（未利用・低利用・高利用）
- ・数量化理論第Ⅱ類を用い特性分析を行う。
その際、年齢は2群（前期高齢者・後期高齢者）に分ける

SNSの定義

- ・本稿ではLINE・Instagram・X・Facebook・TikTokとする

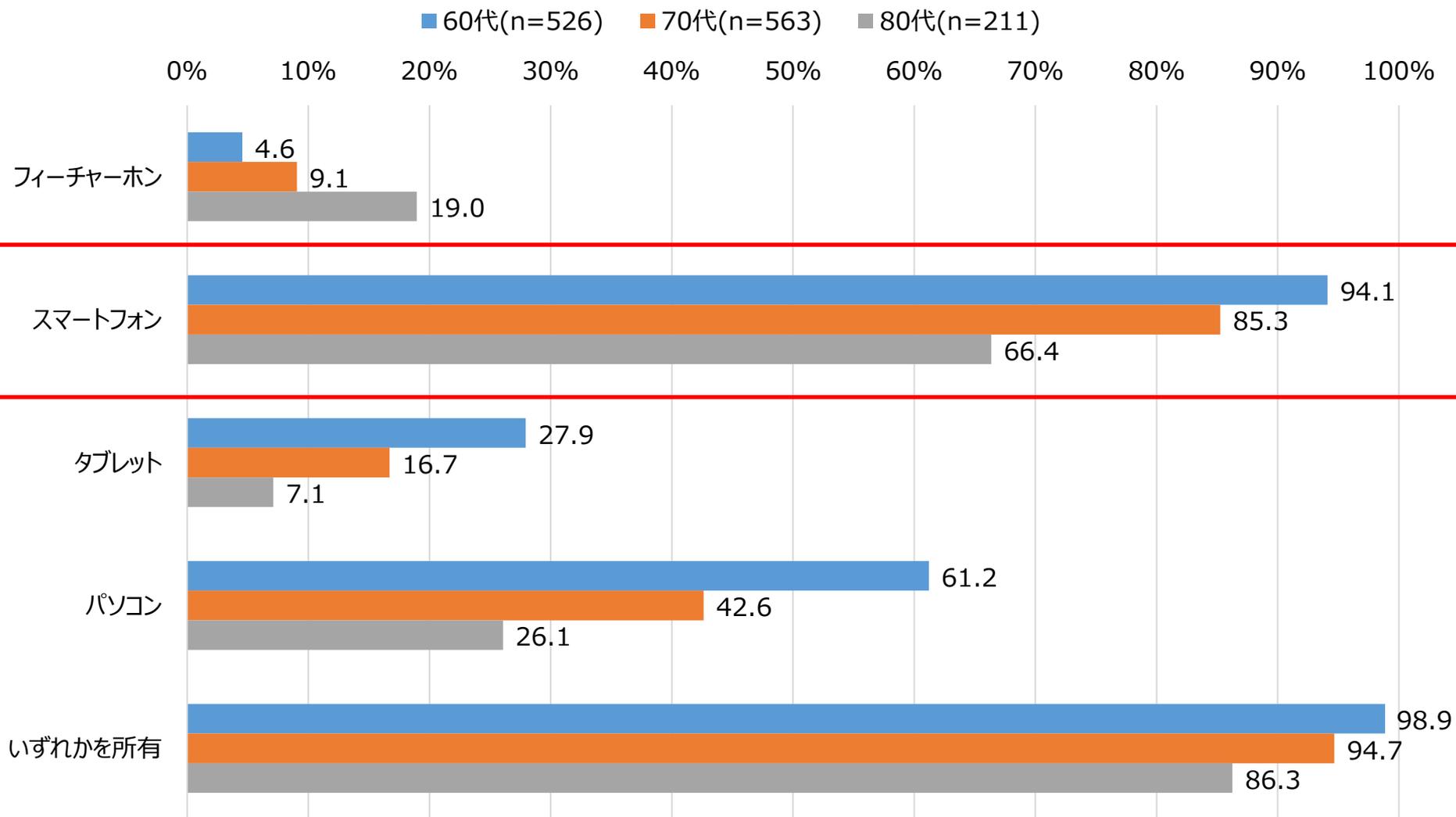
SNSの利用率は60代で90%、70代73%、80代前半は48%





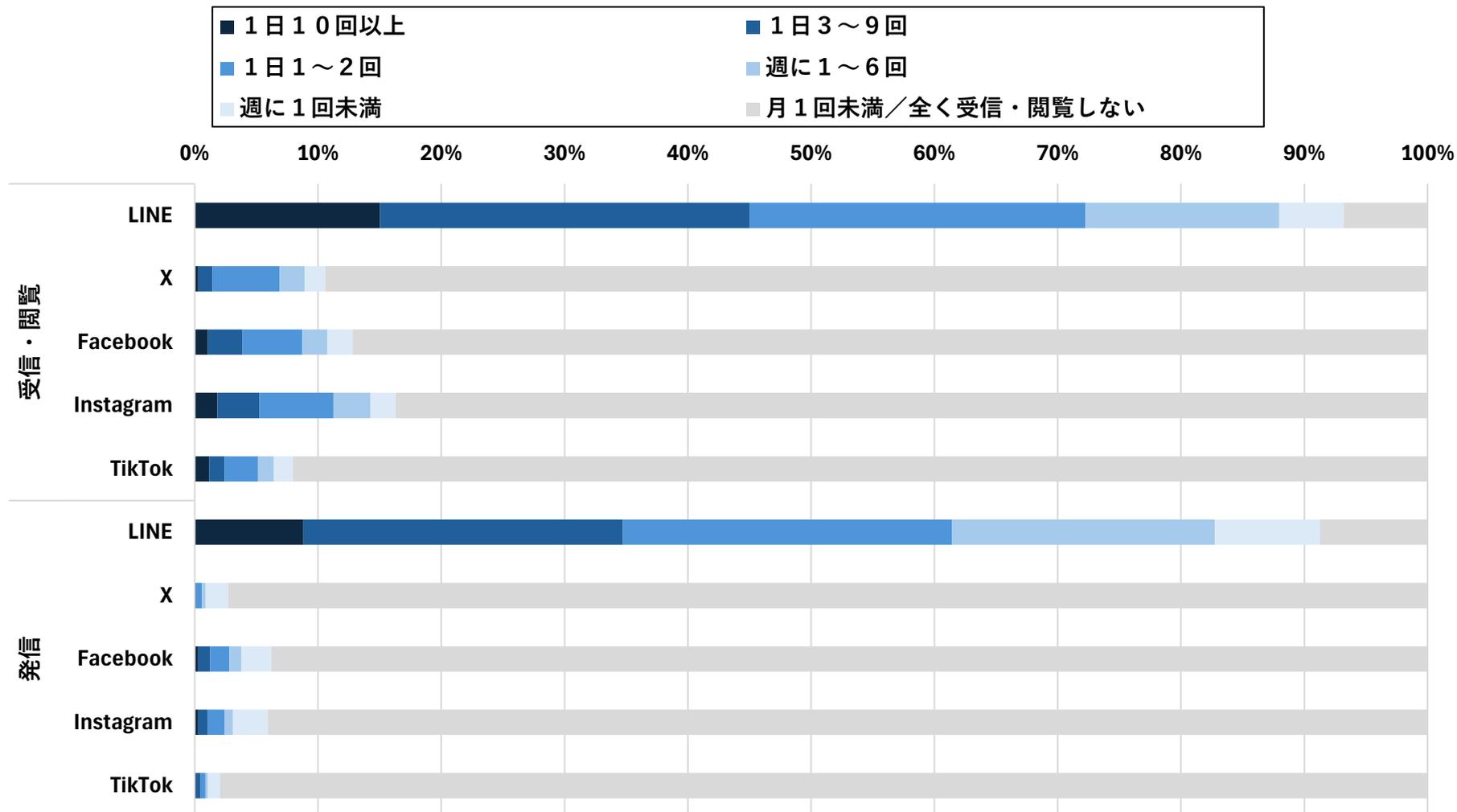
※関東、60-70代の平均

スマホの所有率は60代で94.1%、70代85.3%、80代前半は66.4%



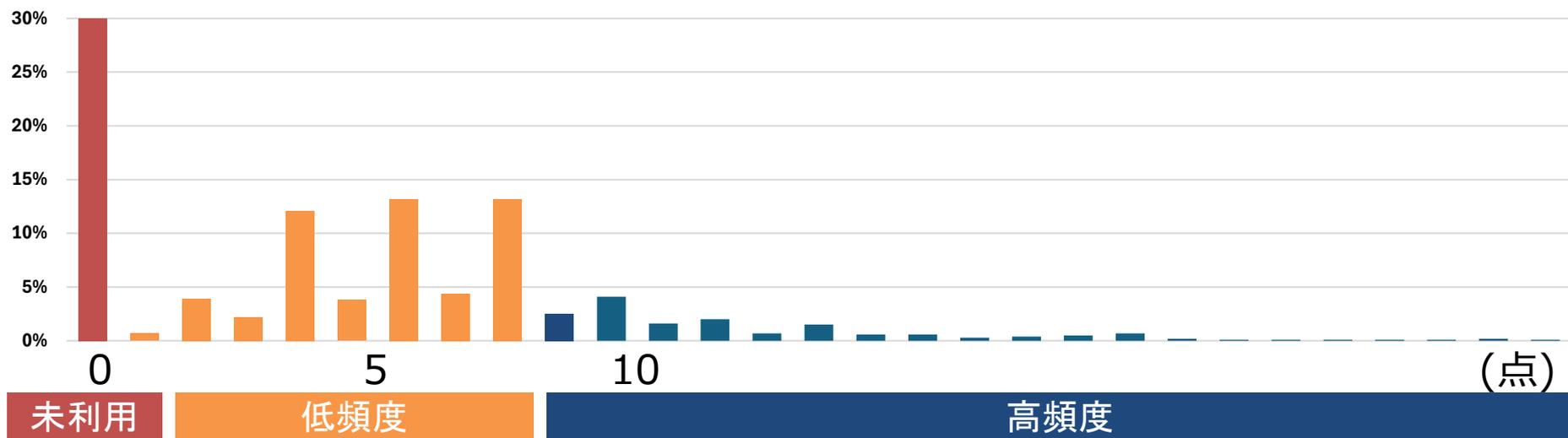
※タブレット・パソコンは家族所有を含む

SNSの利用頻度を基に数値(得点)化実施

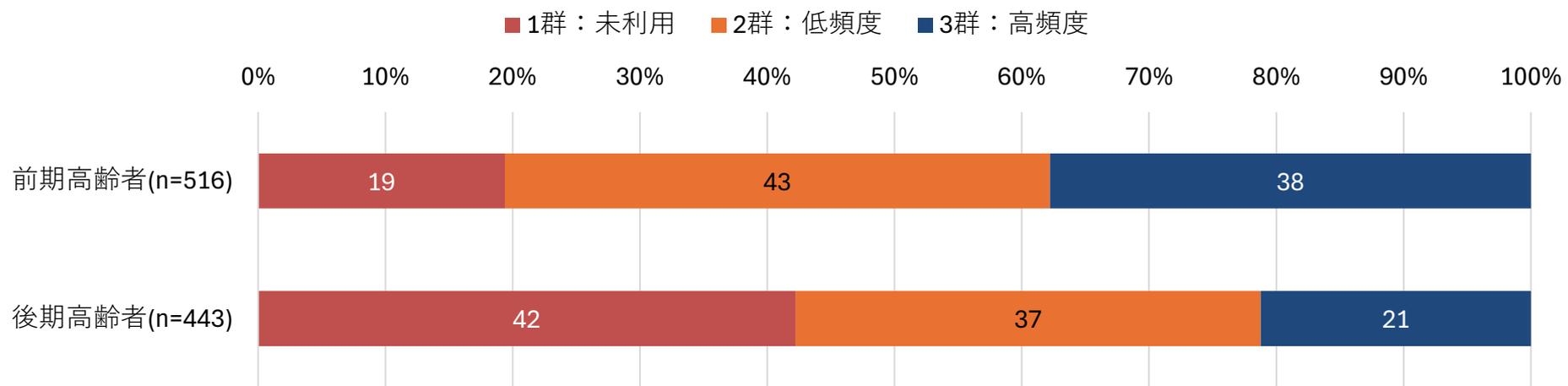


得点化→受信・発信の頻度ごとに1日10回以上を5点、1日3~9回を4点、1日1~2回を3点、週に1~6回を2点、週に1回未満を1点、月1回未満を0点とした。得点は0~50点。

得点を基に「前期高齢者」「後期高齢者」を1群「未利用」2群「低頻度」3群「高頻度」に分ける



目的変数



属性・社会活動・ライフスタイル・QOLから14項目を説明変数とする

■ QOL

健康満足度

幸福感

孤独感

■ 社会活動

地域活動

教室活動

友人との対面
交流

■ ライフスタイル

イノベータ

情報欲求志向

経済的ゆとり

■ 属性

性別

就業状況

家族構成

学歴

世帯収入

前期高齢者・後期高齢者とも相関比及び寄与率の偏りから1軸の結果を考察する
 なお、前期高齢者・後期高齢者とも1軸は各群のカテゴリースコアの平均及び
 判別グラフの形状より、「1群：未利用」と「3群：高頻度」を分ける結果とみる。

前期高齢者			後期高齢者		
判別的中率	83.3%		判別的中率	87.8%	
平均	1軸	2軸	平均	1軸	2軸
1群：未利用	0.96	0.34	1群：未利用	-0.60	-0.14
2群：低頻度	0.03	-0.42	2群：低頻度	0.25	0.42
3群：高頻度	-0.52	0.30	3群：高頻度	0.77	-0.45
相関比 η^2	0.28	0.13	相関比 η^2	0.30	0.12
寄与率	68.5%	31.5%	寄与率	72.5%	27.5%

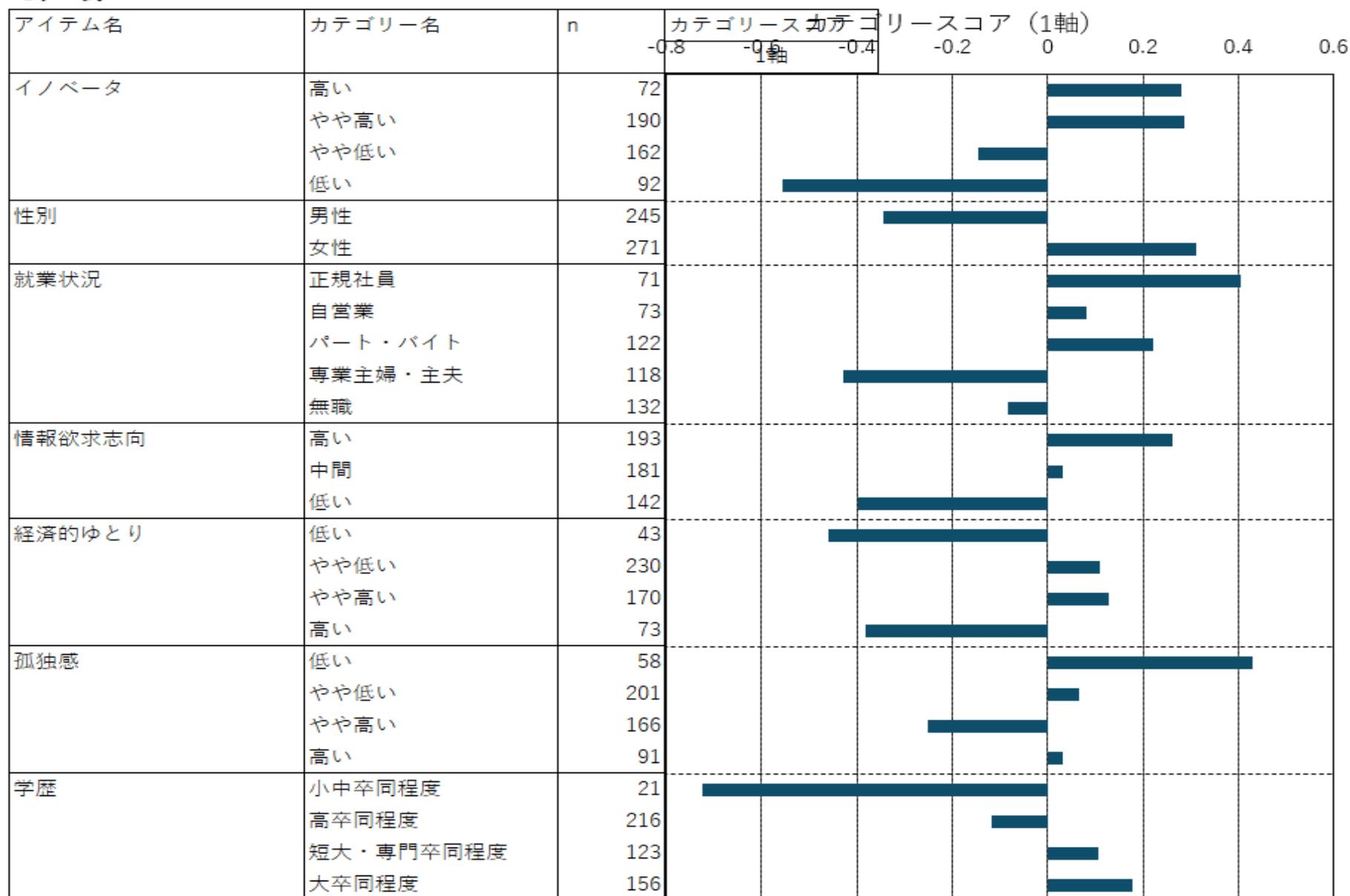
「イノベータ」「情報欲求志向」は前期・後期関わらず高い。
「性別」「就業状況」は前期、「学歴」「孤独感」「地域活動」は後期のみ高い。

前期高齢者				後期高齢者					
アイテム名	レンジ		偏相関係数		アイテム名	レンジ		偏相関係数	
イノベータ	0.845	2位	0.182	1位	学歴	1.233	1位	0.220	1位
性別	0.656	8位	0.172	2位	孤独感	0.869	2位	0.183	2位
就業状況	0.834	3位	0.154	3位	イノベータ	0.795	3位	0.181	3位
情報欲求志向	0.657	7位	0.151	4位	情報欲求志向	0.608	5位	0.151	4位
経済的ゆとり	0.588	11位	0.136	5位	地域活動	0.518	6位	0.143	5位
孤独感	0.679	6位	0.123	6位	家族構成	0.629	4位	0.143	6位
学歴	0.901	1位	0.117	7位	幸福感	0.418	9位	0.110	7位
家族構成	0.687	5位	0.116	8位	世帯年収	0.497	7位	0.105	8位
友人との対面交流	0.770	4位	0.113	9位	友人との対面交流	0.425	8位	0.101	9位
教室活動	0.641	9位	0.113	10位	経済的ゆとり	0.378	10位	0.100	10位
幸福感	0.551	12位	0.113	11位	就業状況	0.354	12位	0.085	11位
地域活動	0.422	13位	0.093	12位	教室活動	0.359	11位	0.079	12位
健康満足度	0.405	14位	0.092	13位	健康満足度	0.330	13位	0.072	13位
世帯年収	0.634	10位	0.088	14位	性別	0.074	14位	0.020	14位

■・・・前期、後期両方とも高い ■・・・前期のみ高い ■・・・後期のみ高い

1群【未利用者】>> = = <<3群【高利用者】

モデル式



3群【高利用者】>> = = <<1群【未利用者】

モデル式

アイテム名	カテゴリー名	n	カテゴリースコア (1軸)		カテゴリースコア (2軸)	
			1軸	2軸	-0.5	0.5
学歴	小中卒同程度	75				
	高卒同程度	212				
	短大・専門卒同程度	61				
	大卒同程度	95				
孤独感	低い	76				
	やや低い	177				
	やや高い	140				
	高い	50				
イノベータ	高い	40				
	やや高い	124				
	やや低い	174				
	低い	105				
情報欲求志向	高い	122				
	中間	173				
	低い	148				
地域活動	多い	128				
	少ない	172				
	行っていない	143				
家族構成	3世代	49				
	2世代（子）	135				
	配偶者	170				
	独居	89				
幸福感	低い	26				
	やや低い	129				
	やや高い	183				
	高い	105				

3群【高利用者】>> = = <<1群【未利用者】

世帯年収	200万未満	88			
	400万未満	145			
	600万未満	47			
	800万未満	29			
	800万以上	39			
	答えたくない	95			
	友人との対面交流	週2日以上	135		
週1日程度		120			
月1回程度		85			
年1回程度		76			
行っていない・いない		27			
経済的ゆとり	ある	35			
	ある程度	212			
	あまり	151			
	ない	45			
就業状況	有職	99			
	主婦・主夫	97			
	無職	247			
教室活動	多い	80			
	少ない	127			
	行っていない	236			
健康満足度	低い	118			
	やや低い	133			
	やや高い	148			
	高い	44			
性別	男性	198			
	女性	245			

今後より普及→イノベータ・学歴の関連が下がる可能性
 後期高齢者「孤独感」との関係が強い→社会的活動が少なくなった時、
 SNSの利用により、孤独感の軽減に繋がる可能性

S N Sの利用頻度が高い高齢者の特性

全高齢者	
イノベータが高い	情報欲求志向が高い
前期高齢者	後期高齢者
女性 有職者	高学歴 地域活動が活発 孤独感が低い

S N Sの利用頻度と関連が低い

健康満足度

教室活動

田中 慎太郎ら(2024)地域在住高齢者におけるSNS利用と孤独感の関連『日本老年療法学会誌 3』1-8

太刀川 弘和ら(2024)社会的孤立・孤独問題にICT は活用できるのか『医療と社会 34 (1) 』 71-77

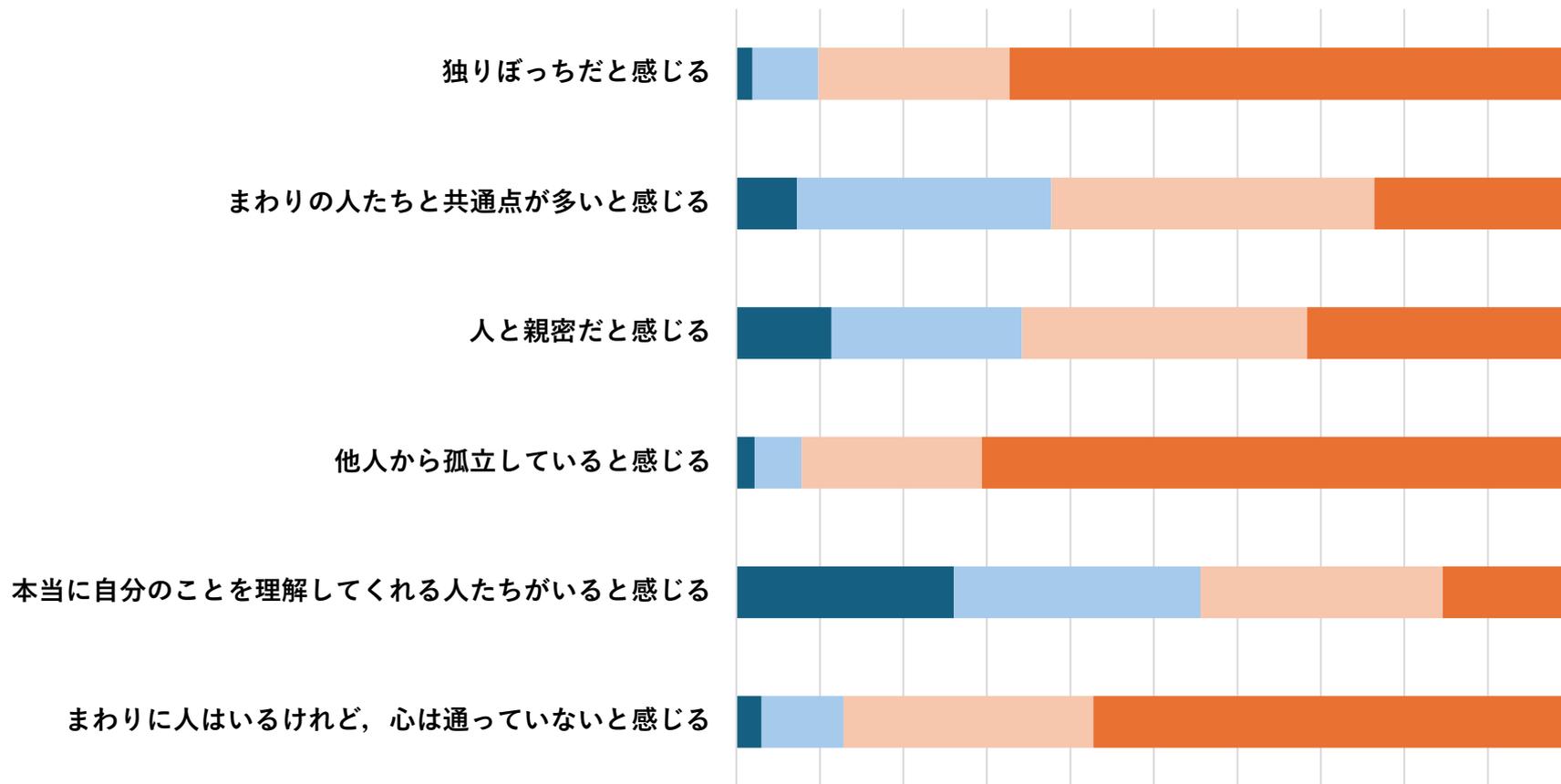
井本 千代香ら(2023)高齢者のスマートフォンの利用頻度と社会的交流人数との関連『山口県立大学学術情報:大学院論集 16 』 87-93

山下 壮太ら(2023)高齢者のコミュニケーションと余暇活動の満足度に関する研究『一般社団法人 日本福祉のまちづくり学会』 56-66

関川 陽平 (2023)地域在住高齢者におけるソーシャルネットワーキングサービスの利用と主観的健康状態、うつ病、社会的孤立の関連性『人間環境学研究 21 (1) 』 47-52

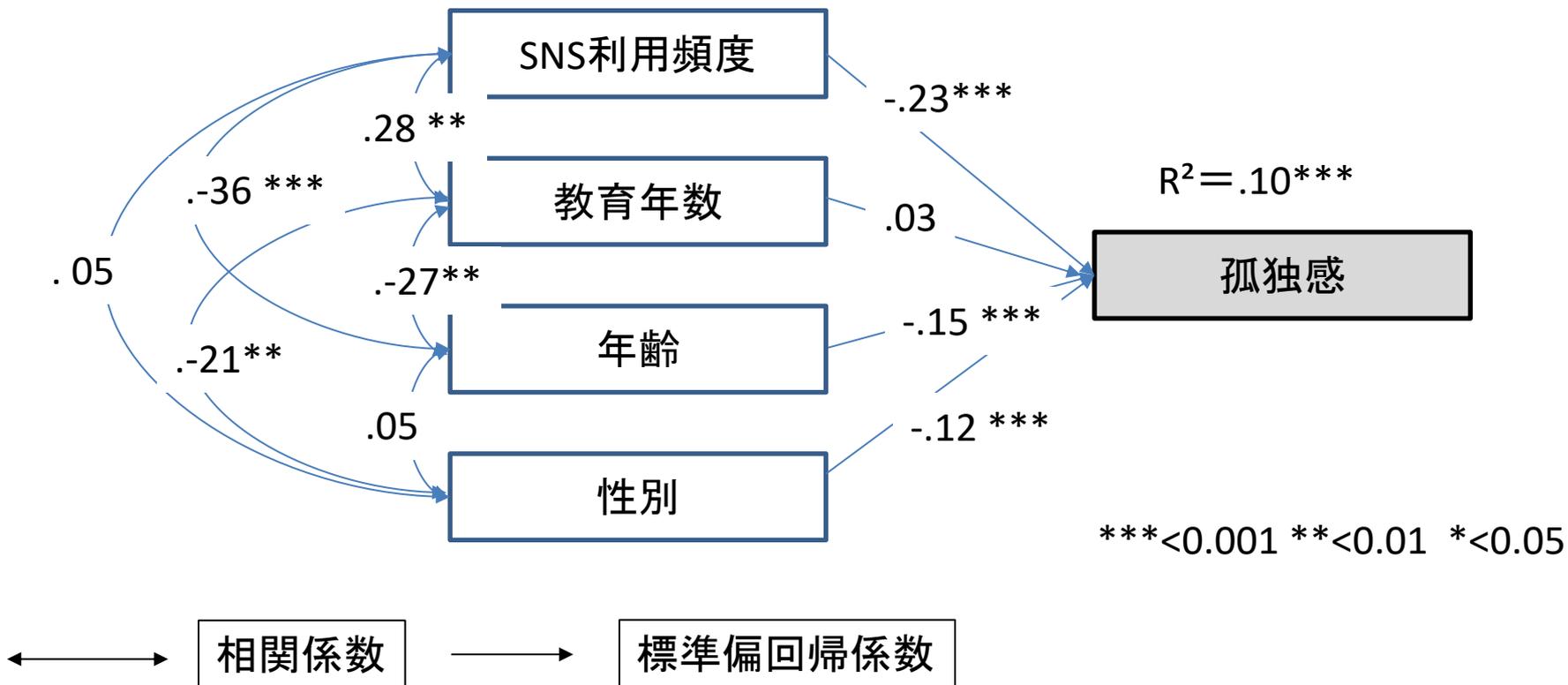
大田 康博ら(2022)高齢者のインターネット利用と健康・幸福感の関連『老年社会科学 44 (1) 』 9-18

森やすこ(2008)中高年インターネット利用者の社会関係とQOL『社会情報学研究,12(2)』 1-13



得点化→24点～4点⇒層別化「低い」「やや低い」「やや高い」「高い」

「SNSの利用頻度」が高いと「孤独感」が低い



「SNSの利用頻度」が高いと「幸福感」が高い

